

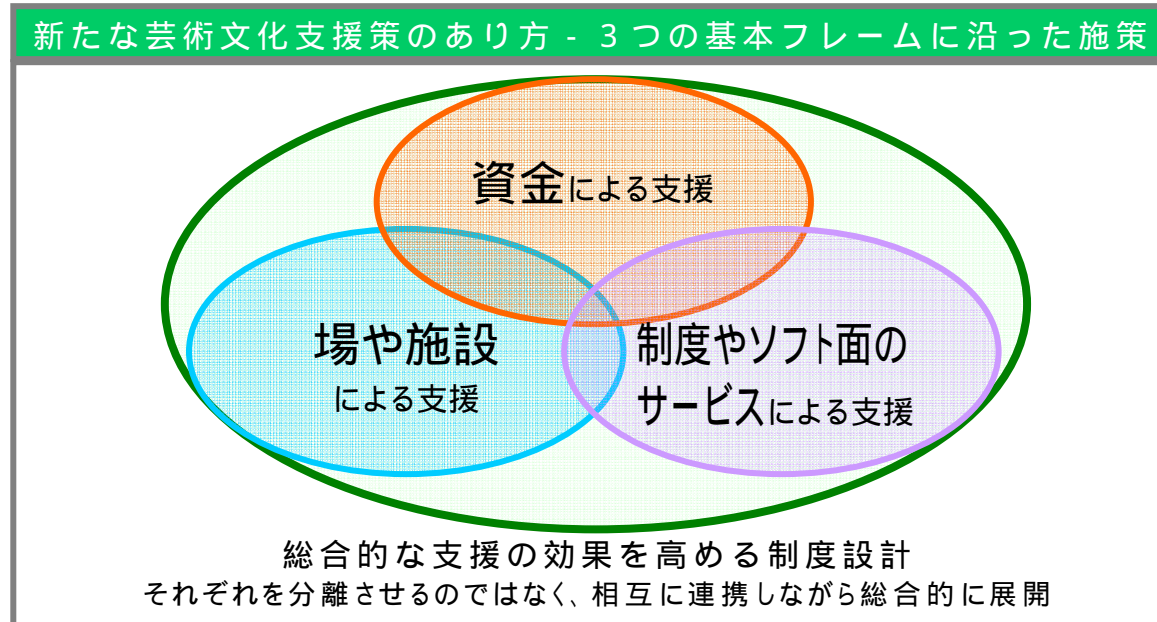
芸術文化への支援・投資が、東京の未来を創造する - 芸術文化活動支援のあり方検討部会報告 -

目標
 東京が持つ大きな潜在能力を活かし、東京ならではの芸術文化を創造・発信する環境を整備し、さらに高いレベルの成熟した文化都市を目指すことにより、世界の中で確固たる存在感を示していく

諮問
 芸術文化活動に対する支援のあり方

芸術文化支援における考え方の転換
 消費する都市から創造する都市へ
 芸術団体が都民と向き合う仕組みづくりへ
 持続的な支援の展開、支援策の専門性を高める

芸術文化の創造活動支援に求められる戦略
 創造活動に対する経済的支援
 創造活動の場や施設の整備
 制度や仕組みの見直し、情報やノウハウの提供



体制の整備
プログラム・オフィサー等の専門家の起用

- 支援の成果を総合的に評価・検証
- 継続的な支援プログラムの点検・見直し
- 支援プログラムの廃止や新設

早急に取り組むべき施策 → **中期的に取り組むべき施策**
 ...既に取り組みが始まっている項目 ...新たな取り組みが必要な項目

資金による支援

助成制度の拡充と制度の見直し
 H19年度は総額2千万 H20年度は6千万 H21年度は8千万(予定) 助成金額を自己資金の範囲内とする条項の撤廃 助成金の一部先払い 対象費目の拡大 助成金額のさらなる拡充 年複数回もしくは通年での申請受付 複数年の継続助成など

プロフェッショナルへの支援
 公演や展覧会を単位とした助成から、創造活動を重視した助成へと転換 海外との共同制作や作品の創造に向けた交流活動への支援など

都民の文化へのアクセスの拡充
 子どもたちの育成プログラム 芸術団体やNPOが参画する事業の充実 誰もが身近に創造的な芸術文化活動に参加できる機会の拡充など

場や施設による支援

活動支援アートセンター(仮称)の開設
 廃校となる遊休施設を活用した舞台芸術系の創造・制作の場の整備 施設提供、人材交流、情報提供、環境整備等の総合的支援 マネジメントやコーディネイトの専門人材育成 地域に開かれた活動展開など

既存の都立文化施設の自主プログラムの強化と運営体制の拡充
 都立文化施設における創造活動の一層促進(公演や展示事業だけでなく) 東京都歴史文化財団の人材や情報の共有 企画制作や広報の連携など

他の設置主体の文化施設との連携
 都内の区市町村の施設とプログラム面の連携 創造、普及・交流、鑑賞のネットワークの形成 身近な場所で芸術文化に触れ合える環境整備など

サービスによる支援

寄附しやすい制度の構築
 寄附税制の見直しや新たな公益法人制度に即した公益財団・社団の条例指定等の制度整備 資金調達のノウハウの獲得や動機づけを促す仕組みづくり 「緑の東京募金」「マッチング・グラント」といった先進事例の参照・検討など

情報サービスの充実
 芸術文化に関する多様な情報を収集・提供する仕組み アーティストの使い勝手に配慮した情報サービス 英語のウェブサイトの充実など

人を介した支援
 創作や発表のための相談窓口を設置 適切な人材や団体を仲介するコーディネイト機能の充実 中間支援的な役割を担う団体との連携など

長期的に東京の芸術文化の状況全体を見渡せる能力を持った専門家を起用
 早期に「アーツカウンシル」機能を持つ組織を整備、計画的に人材を育成